

CDB Symposium 2014 を開催

2014 年 6 月 6 日

理研 CDB は今年で 12 回目となる国際シンポジウム、CDB Symposium を 3 月 10～12 日に開催した。CDB Symposium は発生と再生の分野における研究者間の国際的な知的交流を深め、研究の発展に貢献することを目的として年に一度のペースで行われている。今回は“Regeneration of Organs: Programming and Self Organization”をテーマに 15 ヶ国 180 名の研究者が集い、連日多くの研究発表や意見交換がなされた。



今回のシンポジウムは再生現象理解への新しい切り口を模索することを目的とし、再生の分子機構、再生における自己組織化、自己組織化の数理学的研究、生物と器官の形とサイズを決めるメカニズムなどのテーマに沿って、31 の口頭発表と 60 以上のポスター発表が行われた。

オーガナイザーは京都大学の阿形清和教授と理研 CDB の森下喜弘研究ユニットリーダー、丹羽仁史プロジェクトリーダー、Center for Regenerative Therapies Dresden (Germany) の Elly Tanaka 教授の 4 名が務めた。次回シンポジウム“Time in Development”は 2015 年 3 月 23～25 日の開催を予定している。